※改ざんされた土地の権利書

　このホテルは、初代支配人であるキッシュ氏が私財を投資して建てている。
土地家屋の権利書は、通常その権利者が死亡した場合はその親族が引き継ぐ。

　その証拠に、彼が死んだあとは娘であるローザが引き継いでいる。

　しかし18年前のローザ亡きあと、裁判所の判断はジャックを後継として認めた。
それはキッシュ氏の私財そのものをすべてジャックが受け継いだという事に等しい。

　この権利書が改ざんされたものである、というのは明らかであった。
　当時ローザには2人の娘がおり、さらに遠縁の親戚もいたからだ。

　私は施錠された部屋…引き出しの奥の筒から一枚の権利書をひきのばしてそれを読み始めた。

　そして私は…驚愕の事実を知ることになる。

　間違いなく、この権利書は正規のものではなかった。
　なぜならば現在、この土地の所有を権利しているのは、【ジャック＝バイセン】と、【デッド＝ダーティー】
…つまり、ジャックと私の連名になっていたからだ。

　当然だが、18年前にローザと離婚している私に、本来後継する資格などない。

　ローザが殺された当時から、私はその犯人はジャックであると思っていた。もしかしたら思い込みたかったのかもしれない。

　おそらくジャックは…そんな私の思惑すら利用していたのだ。

　私はその権利書を元の筒に戻し、また引き出しの奥底にしまった。